

## 山ぼうし

第28号 平成19年 7月26日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



## こんな新入社員みだごとねえ

## 校長 兼 平 栄 補

6月から事業所を訪問し、卒業生の様子や新規高卒者に対する求人動向などを把握している。ほとんどの卒業生は、職場に定着し、各事業所の期待に込んでいるようだ。高卒就職者の1年以内の離職率は、岩手労働局によると岩手県の場合、約27%にもなるようだ。3年後には50%弱が離職するという統計が出ている。しかし、宮古・下閉伊地区に就職した本校の卒業生は、離職者が少なく、離職率は県平均を大幅に下回っている。

積極的な研修態度が評価され、自分の希望する部署へ配置されたという女子卒業生や、中央に派遣され、研修を積むことによって、将来の担い手として大いに期待されている卒業生がいたり、本校卒業生は、ほとんどが好評価をいただいている。

就職した卒業生の動向は大いに気になるところである。進路指導のみならず教育全般を見直す手掛かりとしたり、企業の体質を推し量り今後の進路指導に生かせると考えるからである。

そんな中、7月上旬に就職支援相談員の佐藤氏とM社を訪問したときであった。私達より遙かに若いと思われる工場長さんから開口一番、「こんな新入社員みだごとねえ」と言われた。新入社員研修時に関わってであるが、話の要旨は、「研修時に居眠りをする。」「4名採用（他校生を含めて）

したが、全員運転免許を取得して来なかった。」（M社の他にも同様の指摘を受けた会社がある。）、「一般的な研修として実施した自動車のタイヤ交換時に満足に工具も使えない。運動部で鍛えたはずなのに私より力を出せない。」「挨拶が出来ない。挨拶指導は行われているようだが、それが就職後生かされていない。就職する手段としてのみの挨拶指導になっているのではないか。」等々であった。M社へ就職したその卒業生は、仕事中に居眠りが出来ないよう始終体を動かさなければならぬ部署に配属されたそうである。指摘があった事項の内、自動車運転免許については、誕生日や家庭の経済状況などにも原因があると思われるが、その他は学校の日常でも改善できる余地はかなりあると思われる。

企業の人事担当者によると、中途採用者の職場定着状況は、新規高卒就職者に比較すると極端に悪いようである。3年生は、自分の希望就職先を積極的に見学するなど十分に検討し、ミスマッチを無くする努力を講じて欲しい。将来は職場に定着し、安定した生活を送りながら地域に貢献してもらいたい。それがひいては、本校の発展にもつながり、好ましいサイクルを生み出すと考える。

## 8月行事予定

8月20日(月)	休み明け試験、安全の日
21日(火)	身長・体重測定
22日(水)	進路推薦会議
23日(木)	服装・頭髪検査 全国高P連(～25日)
24日(金)	市長講話(2年)
27日(月)	週課題確認テスト
30日(木)	交通安全講話



# 大会等 結果報告

## 第57回東北高等学校柔道大会

個人戦男子 90kg級 1回戦敗退 (機械科3年 成ヶ澤 光)

### < 県民体育大会 県大会 >

- 卓球部  
男子シングルス (8名出場)  
3回戦敗退3名  
ポイントにより新人戦第5シードを獲得
- ラグビー部  
Bブロック  
1回戦 本校 21-19 水工  
2回戦 本校 14-14 釜南  
(抽選負け)
- 陸上部  
予選敗退
- 剣道部  
団体戦  
1回戦 本校-一戸 1勝2敗  
個人戦  
二段以下 4回戦敗退 1名
- バレーボール部  
1回戦 本校 0-2 水工
- 弓道部  
近的 24射14中 (8位)  
遠的 72点 (9位)  
総合 11位
- バスケットボール部  
1回戦 本校 79-114 岩谷堂
- 柔道部  
個人戦 (2名出場)  
無差別級 ベスト16 1名
- ソフトテニス部  
個人戦 (3名出場)  
5回戦敗退 (ベスト16) 1名
- サッカー部  
予選リーグ 本校 1-2 花巻南  
本校 5-3 釜石工  
本校 0-4 盛岡商  
(1勝2敗予選リーグ敗退)

## 岩手県高等学校級別囲碁大会

Dブロック 2位 高田幸生 (4級認定)

## 野球部最後の夏



去る7月13日(金)、毎年三年生には最後となる夏の高校野球岩手県大会が行われました。会場は昨年引き続き雫石町営野球場。数多くの先輩たちが喜び、あるいは悔し涙に濡れた因縁の場所でした。対戦相手の盛岡工業高校は下手投げに時折サイドスローも混ぜるエースを擁する難敵でしたが、同じ工業高校同士。前日のミーティングの個々の表情も凛としたもので、全員必勝を期して当日に臨みました。

盛大な全校応援を受けながらも、序盤から試合は苦しい展開でした。本校エースの工藤(M3・河南中)、2番手の門口(F3・川井)、続く阿部(E2・山田)ら投手陣の力投も実らず、また守備陣に昨今の練習試合では見られなかったような乱れもあり、盛工に

5回までで7点を奪われました。一方、好調だった打線も相手投手の好投にかわされ、0点と沈黙。こうなると試合は相手ペース。盛工バッテリーに上手にこちらの持ち味を封じ込められた格好で、無念の7回コールド負けとなってしまいました。

振り返ると、キャプテン熊谷(I3・宮古西)率いるこの代のチームは抜群の仲のよさ、チームワークを秘めながらも、怪我やハプニングに泣かされ、戦力が整うまで時間のかかったチームでした。その中でも最後は3年生全員が揃ってベンチに入り、苦しい試合展開ながらも最後まであきらめの声はなく、お互いを叱咤激励する姿が見られました。これこそが彼らが2年半の間ほとんど休み無く練習に明け暮れて手に入れた、真の成果のように思えます。

全校応援にご理解をたまわり、この場をお借りして改めて深くお礼を申し上げます。球場に響く応援歌と声援は、苦しい試合展開に耐え、勝機を探る部員たちを大いに励ましてくれました。

